

チョコレートの国？ガーナでの 1 年 9 ヶ月

高岡哲郎

(19-1、ガーナ、小学校教諭、摂津市立鳥飼東小学校)

まずガーナについてですが、人口は大体 2300 万人、面積は大体本州と同じくらい、公用語は英語なのですが、ほとんど現地語で英語ができない子供がたくさんいます。ガーナと言って皆さんが思い浮かべるのはガーナ・チョコレートではないでしょうか。私自身もガーナに行く前はガーナといえばチョコレートというイメージを持っていたのですが、それもそのはずで、日本のチョコレートの約 8 割はガーナ産のカカオからできており、ガーナのカカオがなければ日本のチョコレートは食べられないというほどです。実際カカオ豆の生産量でいうと 1 位がコートジボワール、2 位がガーナ、3 位がインドネシアとなっており、ガーナは世界有数のカカオ豆の生産地となっています。しかしチョコレートの生産量では、1 位から 20 位まで先進国で占められています。チョコレートの国ガーナというイメージがありますが、実際は途上国が原材料を生産して、それを先進国に売って、そうしてチョコレートが作られる、ということです。実際のガーナがチョコレートの国になるには、自分達でもっと加工ができるようにならないといけません。現在のところ、カカオの国かなと思います。開発途上国の現状はこういうところにも表れています。

ガーナでの活動なのですが、要請内容として 2 点あります。1 点目は子供の理数科能力の向上、2 点目は教員の教師力の向上です。つまり対先生、対子供という 2 点が要請内容になります。

タマレ市内の小学校を巡回し、とここに書いてあります。これは巡回型といって 1 つの学校に所属するのではなく、教育委員会に所属していろいろな学校を回る、という形式です。ここに書かれている通り、自分の授業のコマ数が決まっているわけではなく、学校に行って授業をさせて下さい、あの先生の授業を見学させて下さい、というように交渉をしなければならないのでなかなか大変でした。その分、都会の学校だったり、農村の学校だったり、とさまざまな学校を見ることができ、その違いもいろいろと見ることもできました。

ガーナの教育スタイルなのですが、ここに書いてある通り CHALK & TALK、生徒に考えさせる時間、練習させる時間が少ない、教師中心の授業、授業のテンポが良い、ということが挙げられます。上の 3 つはもう少し改善する必要があると思いますが、テンポが良いというのはとてもいいと思います。

黒板しかないような状況で書いて喋って書いて喋って、なかなか子供が質問できるような状況じゃないのが向こうのスタンダードです。先生が定理を 2 分間くらいずっと書き続けて、はいじゃあ写しましょうという。ほんとにそういうのが実際あり、子供達は意味が

分かっていなくても写している、という状態があります。僕が好きなのは、良い正解を言う
と皆でこのように手拍子をするところです。これはアフリカのいろいろなところにある
のですが、いい正解をしたら彼に拍手をということでこういう風に拍手をするという、こ
ういうテンポの良さというのはあると思います。

今見せたのが学校の授業のスタイルなのですが、やはり子供たちの弱さというのが 2 点
ありまして、基本的な計算力の差と数量感覚です。 $24 \div 6$ は 4 なのですが、日本の子供なら
6 の段を使ってすぐ 4 と出るのですが、数がそもそも覚え切れていません。この子は本当に
要領のいい子で、数字を書いてやっている子というのはなかなか珍しいです。こういうよ
うに数えて、今 12 個だったから 2 個ずつ足していくということで、2 個ずつ足していった
ということで能力的に高い子だなと思うのですが、これで 2 と 4 つだなということで答え
を導きだせるというのはとても良いのですが、実際この子も次の $63 \div 7$ というのは数が多
くなって間違えてしまいます。このように本当に九九ができません。そこで私が活動で最
初にやったことは、とにかく九九を覚えないと分数も足し算もできないので、フラッシュ
カードを使って、とにかく九九を暗証しようということをやりました。効果は学校により
けりなのですが、本当にいいところはまじめに取り組んで、9 の段の九九も言えるようにな
ったので、それは良かったかなと思います。

数量感覚がないと申し上げたのですが、それがこれに現れています。 $6+7=13$ 、 $1+2=3$ 、
だから 313、こういう形の間違いをしても子供達は別に何も気づかない。普通 16 個のものと
27 個のものを足したら大体 50 くらいかなという私達の感覚があるのですが、本当に数の
操作だけでやっており、こういう間違いや掛け算なども $3 \times 3 = 9$ を $3 \times 3 = 80$ なんぼとか
いようになっちゃたりします。このように数量感覚の弱さということがあったので、右に
あるこういう具体物とかを使って、10 のまとまりは 10 と書いてある中に石を 10 個入れて、
これが 10 個ある、それが 10 個で 100 という形で本当に身近に手に入る教材を使って、数
量感覚を育むような授業をしました。

また、教師中心の授業だったので、とにかく子供たちが楽しみながらということを考え
て、足し算リレーや 7 の倍数の時に手をたたく、というようなゲーム的なものや競争させ
るようなものを取り入れました。これらはガーナの先生にも本当に好評で、何もない状態
で、ちょっとした空き時間に行えるということで好評でした。

算数以外に理科の時間がありました。例えば教育現場ではよくあると思うのですが、こ
の上にクリップがあります。ちょっと緊張していますが、力を入れ、下がれ下がれ、スト
ップ、というような本当に簡単なことなのです。これは浮沈子といわれているもので、よく
テストにもでてくると思います。これなどはストローと水だけの本当に簡単なものですが、
これがあれば抜群にウケます。言葉がわからなくても、本当にこういうような簡単な向こ
うのお店にあるものを使った楽しめる授業というものをやる。その時に気を付けておきた
いの、ただ楽しいだけじゃダメだということです。こういうようにこういう感じのものを
用意して、この中にも理科のこういう色々な仕組みがあるのだよ、というのを伝える授

業をやりました。

大体巡回して1つの学校で5回くらい授業をします。これは小学校2～3年生の授業なのですが、その点数はというと100点というのは15%ぐらいで、30点とか本当にできない子供が10%以上いるというような状況でした。数の操作ができる子というのは本当にできます。できないここの層の子供をターゲットに簡単過ぎる授業をやっているのかもしれませんが、巡回前と比べて巡回後は全体的に山が右に行ったのかなと思います。

次は教員の教師力向上についてです。皆さんこれから活動をされていくと思うのですが、数字でこういうグラフだとか、これだけ変わったとわかるものが必要だと思います。このほうがいいですよ、このような指導法がいいですよ、ではなかなかうまくいきません。こういうような数字を出してやったのですが、それもなかなか難しいことは難しいです。今回の反省なのですが、やはりモチベーションの低い教員に対してのアプローチというのは本当に難しいと感じました。そのやり方がいいね、このやり方すごくいいね、と言って下さるのですが、それで終わってしまうのです。それでは、そこでどういうように教師中心よりも子供中心とか、もっとこうやらせるようにしようよ、と言っても継続できないというのがやはり厳しいところだと感じました。そして配属先との連携についてですが、自分自身が教育事務所と連携を取らないといけませんが、教育事務所もやる気がある人となない人がいます。ワークショップを開催しようなどとも言っていたのですが、私の任期中に開催できませんでした。やる気のない教員を下から上げていくことももちろん大事だと思うのですが、期間が1年9カ月と限られていることから、やる気のある人と組んでそこからやっていくという方が良かった、と自分自身の反省としてあります。しかし、私の後に後任が入ってその人がまたワークショップを開催し、1年9カ月終わっても、そのあと引き継いでいくということがあるので自分の活動プラス後任のことも考えてという点も必要なのかと思いました。

要請内容以外の活動として、学校隊員なので夏休みなどがあります。ガーナは理数科隊員がとてたくさんいます。その休みを利用して、理数科分科会といって隊員が20人くらい集まっています。いろいろな学校に行って、実験ツアーをしたり、それぞれ自分の学校の先生を連れてきて、授業はどういう風にするのかというワークショップを開催したりして、休みも有効的に活用できたのかなというように思います。

また、Zani Cupと書かれていますが、これは感染症対策や他の職種の隊員と一緒に行いました。ザンビの夢という現地語なのですが、広くとてもきれいなサッカースタジアムができたのですが、そこで子供達にサッカーをさせてあげようということで隊員支援経費を使って行ったものです。小学校教諭ということで、運動会などの運営などは他の隊員の方よりノウハウがあるので、そういう部分で連携しながらいろいろな活動を行いました。

要請内容とかは関係ないのですが、現職参加ということで、日本の小学校との交流についても何点か紹介させていただきます。これはクロスロードという雑誌に日本の先生たちの生徒への手紙というのを応募させてもらって、これを実際にJICAに持って行きました。

これがその子らにとってとてもいいきっかけになり、日本に帰ってから実際にその子に会ったときにバスケットをもらい、外を見る良いきっかけになりました、すごく刺激になりました、と言われました。こういうのもうまくやっていけたらいいのかなと思いました。一方的なのですが、自分の所属している学校にガーナ便りという形で月に 1 度くらいを目標に、本当に簡単なガーナの身近なものを紹介したりしました。色々あって 1 2 回しか出せなかったのですが、たとえば向こうの教室はどんな感じなのかとか、一番分かりやすい食べ物など、こんな食べ物がありますよ、というのを学級通信形式で配布しました。一応スカイプは速度的にはできる環境にあったのですが、ガーナとは時差の関係でなかなかできませんでした。そこで自分の学校に頼んで日本の学校の様子をビデオレターという形で、日本の学校はこんな感じだよ、というのを送ってもらいました。それを実際にガーナの子供たちに見てもらいました。そしてその様子を私がデジカメで撮って送るというようなことをしました。大体こんな感じです。登校時の様子です。子供たちに色々聞いたりして、逆にガーナの 1 日の様子、こういう風に始まりますよ、というのや、授業の様子、遊びはこんなこと人気がありますよと、いうのを紹介しました。これは実際に人気があったアンペという遊びです。それから最後にガーナの概要を、こんな感じでやっているというのを作って、上映会みたいな形で送ってもらいました。子供たちの反応もすごく良くて、日本に帰ってきたときに先生あれ見たよって言ってくれたりして、それはすごく良かったです。やはり映像という形で送るのはすごく有効なのかなと思いました。

こういう活動はあまりできなかったのですが、E-mail、今でしたらアフリカでも首都とかでしたら回線が速いので、こっちで撮った動画とかを送るというのが頑張ったらできると思います。そういうのももっと早くから気づいていたら良かったかなと思います。メールだけじゃなくて他にも色々方法があるのですが、そういう形でできたらと思いました。これが大体自分の活動の内容になります。

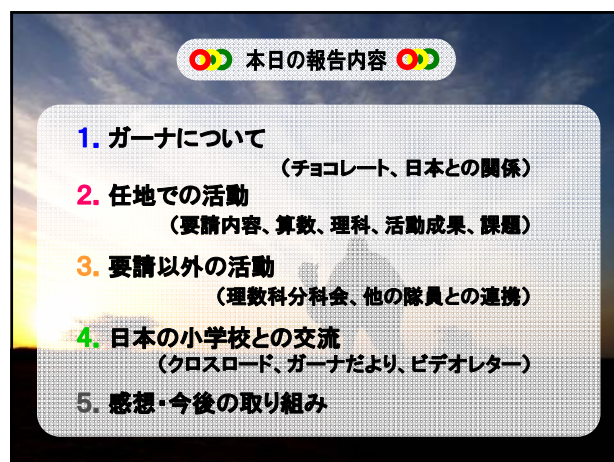
レジュメに書いてある通り、自分の中の反省、感想としては違うものさしで、つまり違う価値観が自分の中に持てたのはとても良かったと思います。特に人との出会い、ガーナ人との出会いというのはもちろんなのですが、訓練所などでの出会いもありますし、同期の隊員、他の職種の隊員との出会いというのもすごく自分にとっては良かったなと思います。また、日本のよさを改めて知ることができたということがあります。先ほど言ったように自分達が習った数学のモデルというのは、小さいころからちょとずつやっていった日本のシステムというのがあると思います。それに対してガーナでは $6+7=13$ と覚えなさい、というような形でやっている部分が少なからずあります。そうするとできない子が出てきます。日本の子供がこれだけそういう計算がきちんとできるというのは小さいころからのきちんとした日本の教育システムがあるのだなと改めて分かりました。

最後なのですが、今後の方向性についてです。日本に帰ってから社会還元という形で色々やってみたいと考えているのですが、日々の仕事でなかなかできていないというのが現状です。自分は担任を今回持っていないので関わるクラスで簡単にガーナのことを紹介する

ことはあるのですが、なかなかしっかりと実行できていないというのがあります。今後ガーナを紹介する授業を行ったりしたいと思います。やはり一番やりやすいのは 6 年生かなということで、6 年生の社会の時間を使って、3 学期に 4 時間ぐらいやらせてもらうことを考えています。また、大阪の OB の集まりである大阪教育ネットワークに参加させてもらっています。

もっと色々なこういうところで還元していますということが言えたらいいと思うのですが、帰って 1 年目でなかなかできないというところがあります。来年以降はもっと積極的にやっていきたいなと思います。

御清聴ありがとうございました。





2. 任地での活動

要請内容

タマレ市内の小学校を巡回し

- ① 生徒の理数科に対する関心を高め、理数科の能力を向上させる
- ② 教員の教授力を向上させる

巡回型とは？

- ・自分の担当のエリアの学校を巡回し指導する
- ・教室型の隊員とは違い、授業時数が確保されていない
- ・サーキットスーパーバイザーに学校を紹介してもらい、学校の校長・担任と話し合い、授業時間を調整する

2. 任地での活動

ガーナの授業スタイル

CHALK & TALK

- 生徒に考えさせる時間、練習させる時間が少ない
- 教師中心の授業
- テンボが良い

授業の様子

2. 任地での活動

ガーナの子どもの課題

- 『基礎的な計算力』、『数量感覚』の低さ

『24÷6』を解く様子

2. 任地での活動

「算数」について

① 反復練習の徹底。

フラッシュカードの活用

九九の暗記（暗唱）

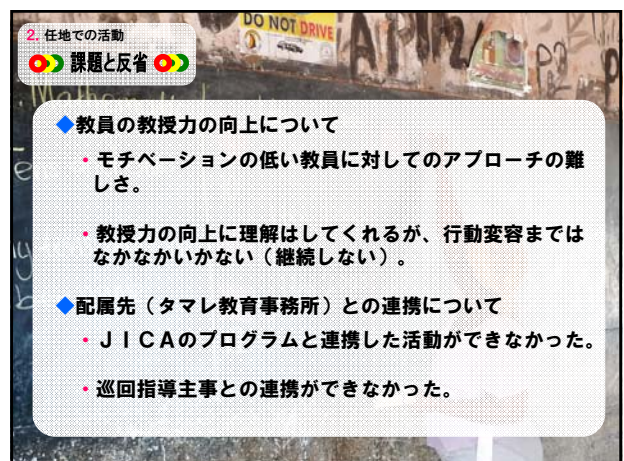
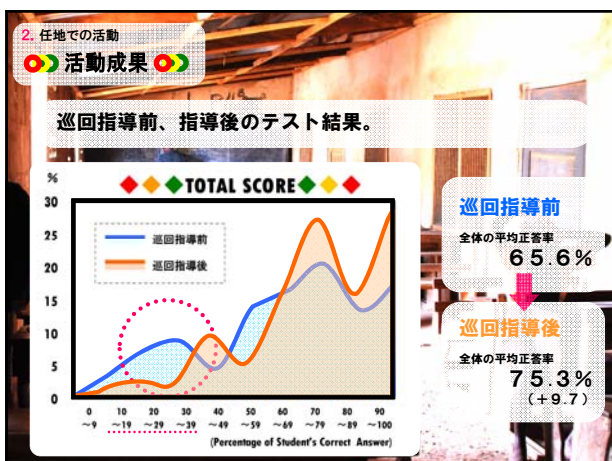
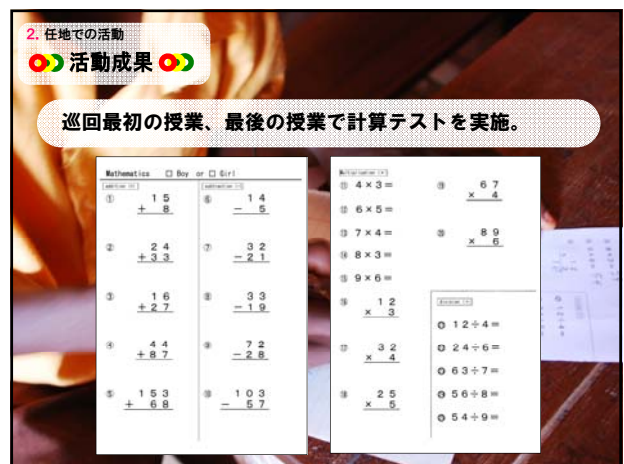
2. 任地での活動

「算数」について

② 数量感覚を育む授業を実施。

くり上がりのたし算の間違い

ビュアウォーターバックを使ったTLM





ガーナ料理にはどんなものがある？

ガーナには、お米以外にも『フフ』、『バンクー』、『プランテン』などいろんな種類の主食があり、それらをシチューにつけて食べます。(シチューにも色々な種類があり、好みにより肉や魚をいれたりもします。) また、『ジョロフライス』と呼ばれるお米の料理もあります。



『フフ』

左のお餅のようなものがフフ。(右はシチュー。)ゆでたイモなどを日本の餅つきのように杵と臼でついて作る。食感もお餅に似ていて、やわらかい。



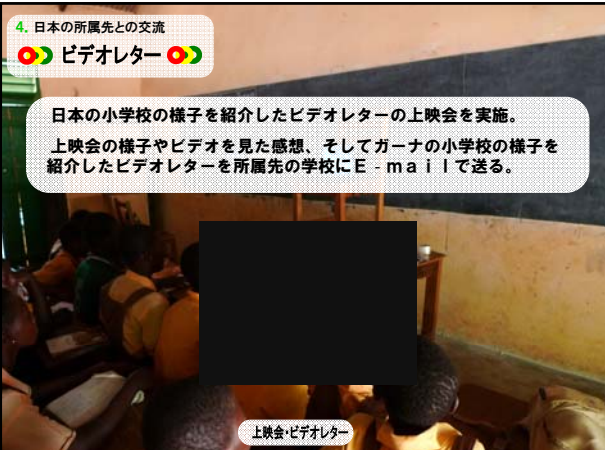
『バンクー』

左の白いものがバンクー。(右の黒いものは魚。)とうもろこしの粉を丸く固め、酸酢させて作る。見た目はフフと似ているが、フフほどやわらかくなく、味は少し酸っぱい。

4. 日本の所属先との交流

ビデオレター

日本の小学校の様子を紹介したビデオレターの上映会を実施。
上映会の様子やビデオを見た感想、そしてガーナの小学校の様子を紹介したビデオレターを所属先の学校にE-mailで送る。



上映会・ビデオレター

5. 感想・帰国後の取り組み



5. 感想・今後の取り組み

感想

- ◆ 違うものさし(価値観)を持つことができた
- ◆ 人との出会い
- ◆ 日本の良さに改めて気づく



5. 感想・今後の取り組み

帰国後の取り組み

- ◆ ガーナを紹介する授業を実施
- ◆ 大阪の教育関係の隊員OVの集まり、「教育ネットワーク」に参加
- ◆ 6年の社会と総合的な学習の時間を使って、協力隊の経験を生かした開発教育を実施予定



ご清聴ありがとうございました。

高岡哲郎

